

令和4年度国民生活基礎調査

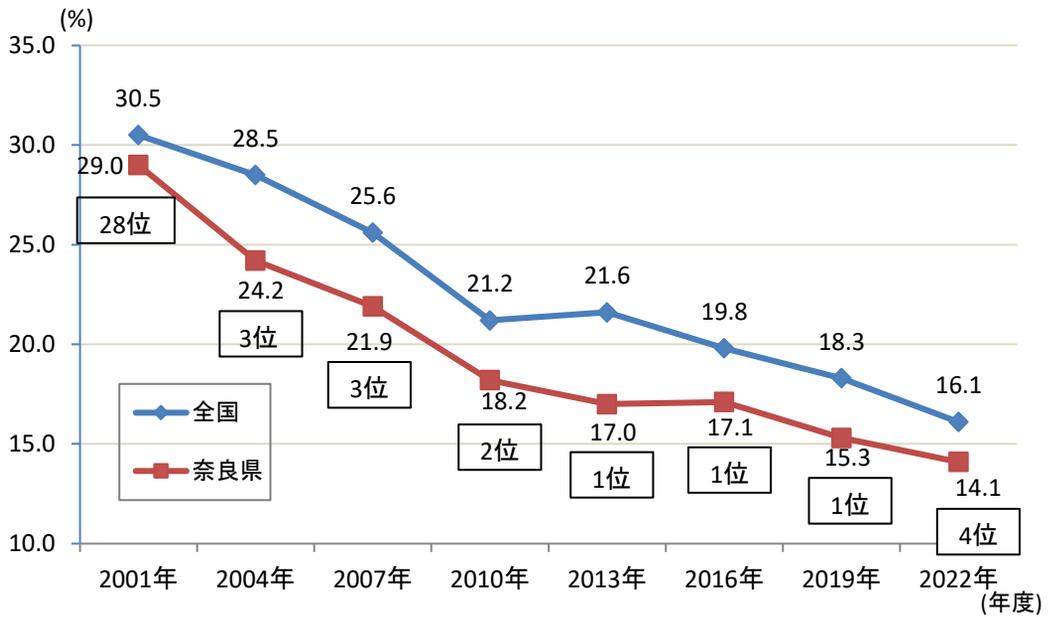
【調査概要（健康票）】

- 調査の目的：保健、医療、福祉、年金、所得等国民生活の基礎的事項を調査し、厚生労働行政の企画及び立案に必要な基礎資料を得ることを目的
- 調査の対象：全国の世帯及び世帯員を対象とし、令和2年国勢調査区のうち後置番号1及び8から層化無作為抽出した5,530地区内のすべての世帯（約30万世帯）及び世帯員（約67万4千人）
- 調査の方法：調査員による回収。調査員により回収する方法に代えて、政府統計共同利用システムのオンライン調査システムによる提出も可能とした。
- 調査の実施日：令和4年6月2日
- 調査の事項：自覚症状の状況、通院の状況、健康意識、こころの状態、がん検診の受診状況等

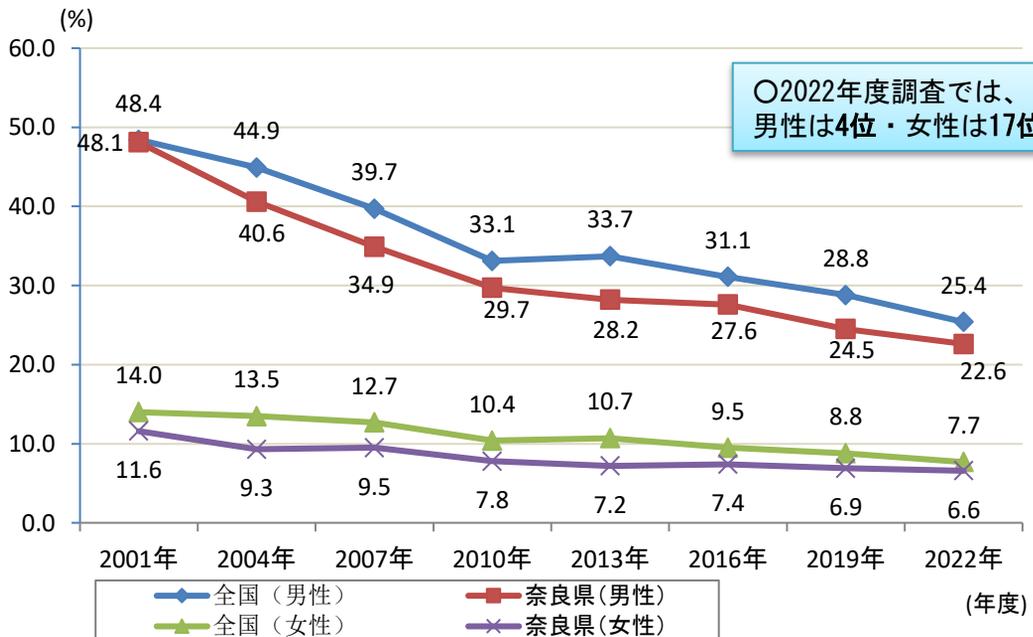
【結果の集計及び集計客体】

- 調査客体数 299,772世帯
- 回収客対数 205,063世帯
- 集計客体数 203,819世帯

【図1】喫煙率の推移



【図2】男女別の喫煙率の推移



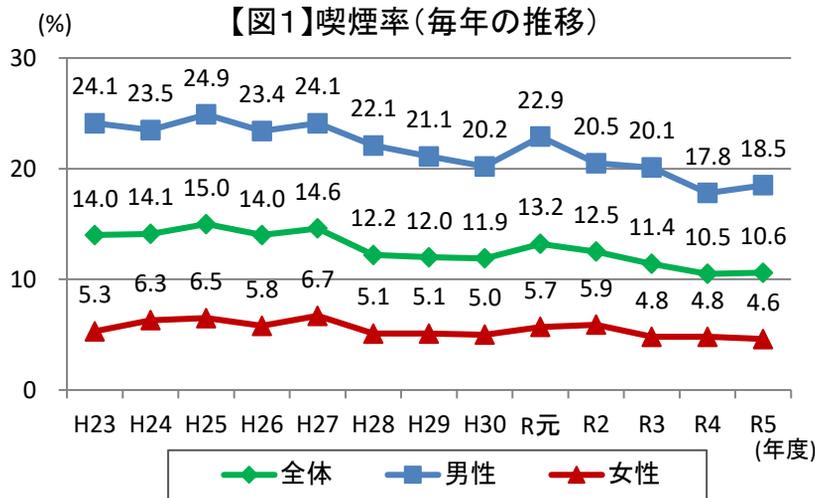
●令和5年度なら健康長寿基礎調査

【調査概要】

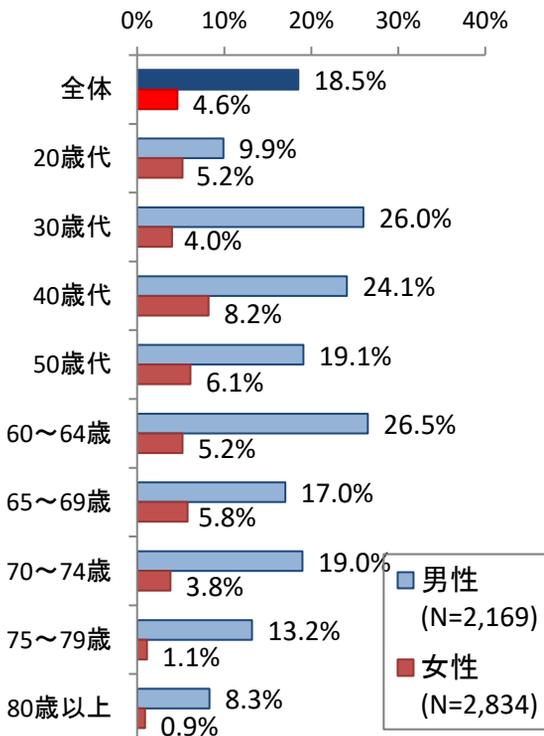
- 調査地域：県内全市町村
- 調査対象：令和5年7月1日現在で県内在住の20歳以上の方から無作為抽出した13,200人
標本抽出は、県内39市町村ごとの人口及び年齢構成に応じて設定したが、調査実施必要数に満たない町村は、人口配分より多く抽出している。
- 調査方法：郵送配付・郵送回収、またはインターネットによる回答。
無記名方式。調査期間中に礼状兼催促状を1回送付。
- 調査期間：令和5年11月10日～令和5年11月27日
- 調査項目：健康的な生活習慣の実施状況、医療と健診の受診状況、地域との関わりや地域活動の実践状況、回答者の属性

【調査回収状況】

- 配布件数13,200件
- 回収数 5,915件(回収率：44.8%) ○有効回答数 5,910件(有効回答率：44.8%)



【図2】たばこを「現在吸っている」人の割合(R5年度)



○喫煙率は、男性18.5%で増加、女性4.6%で微減である。

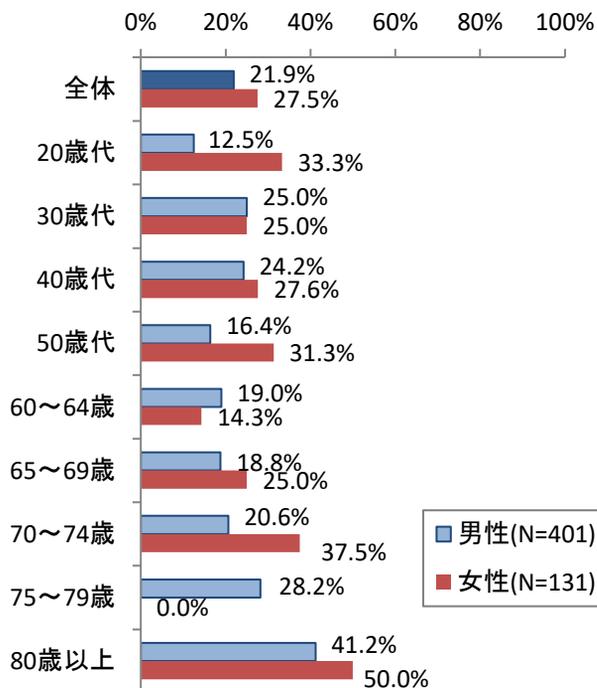
○喫煙している年代で最も多いのは、男性は30歳代と60～64歳。女性40歳代である。いずれの年代でも男性が女性より高い。男性は30歳代～60歳代、女性は40歳代～60代前半が高い割合である。

《なら健康長寿基本計画 目標値との比較》

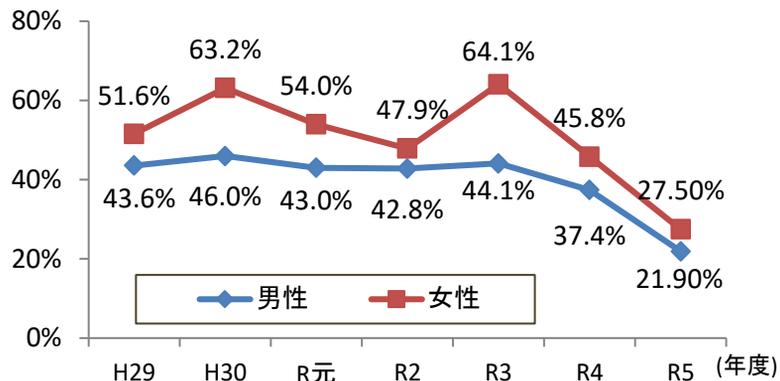
●成人の喫煙率

- 全体：10.6% < 目標値：6.3%
- 男性：18.5% < 目標値：11.1%
- 女性：4.6% < 目標値：2.6%

【図3】たばこを「やめたい」人の割合（R5年度）

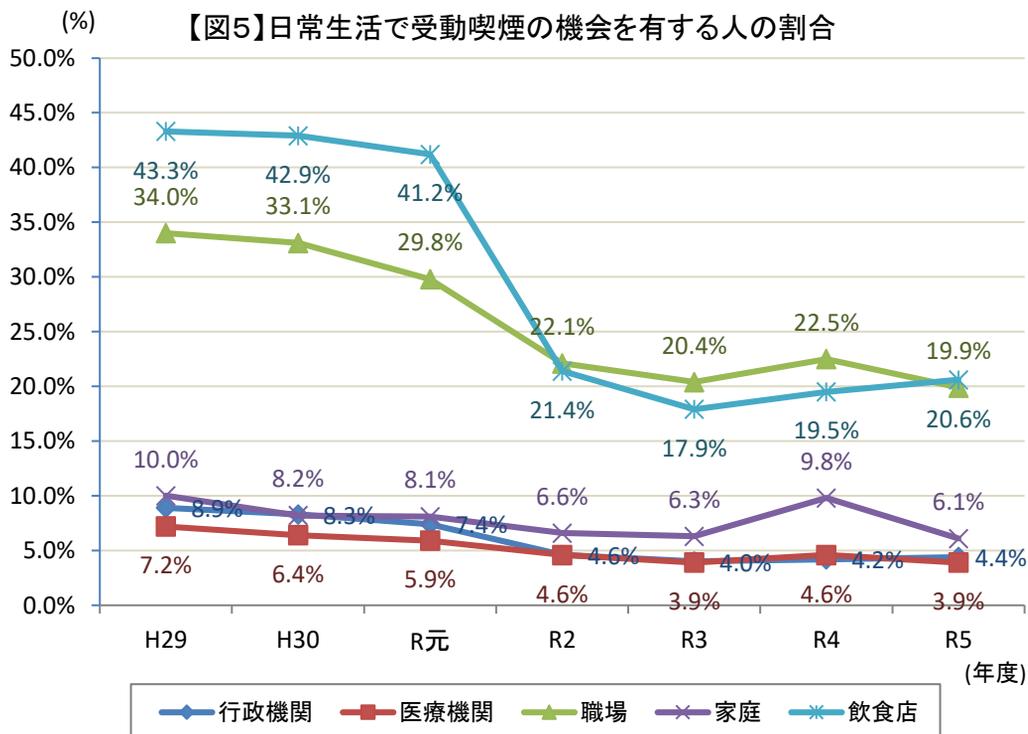


【図4】たばこを「やめたい」人の割合（毎年の推移）



○現在喫煙している人のうち、たばこを「やめたい」人は、男性が21.9%、女性が27.5%で女性が多い。
 ○喫煙者のうち、たばこを「やめたい」人の割合は2年連続減少傾向。令和5年度調査では、令和4年度と比較すると、70～74歳女性と80歳以上の男女を除き、全体的に減少傾向になっている。

【図5】日常生活で受動喫煙の機会を有する人の割合



《なら健康長寿基本計画 目標値との比較》

●日常生活で受動喫煙の機会を有する人

- ・行政機関…全体： 4.4% <目標値： 0.0%>
- ・医療機関…全体： 3.9% <目標値： 0.0%>
- ・職場…全体： 19.9% <目標値： 12.4%>
- ・家庭…全体： 6.1% <目標値： 2.6%>
- ・飲食店…全体： 20.6% <目標値： 14.8%>

※計算にあたり、現在喫煙者は除いている。